

文化財学習会

# ふるさと探訪

テーマ 一宮の文化財を巡る

講師 廣瀬 和孝

(高松市文化財保護協会顧問)

平成25年 1月27日(日)

共催 高松市歴史民俗協会  
高松市教育委員会

讃岐一宮田村神社 一宮町字宮東



田村神社の拝殿

一五、神宝（歴史資料館に寄託） 重文「田村神社古神宝類」

明治四年（一八七二）、国幣中社に列格される。

昭和二〇年（一九四五）、国幣社制度廃止される。

市指定「讃岐国一宮田村大社壁書」など

し、大宝院（寺領五石五斗）を分離する。

延宝七年（一六七九）、田村神社を唯一神道として五〇石を寄進する。

天正一四年（一五八六）、仙石秀久が社領として一〇〇石を寄進する。

天正一五年（一五八七）、生駒親正が社領として一〇〇石を寄進する。

嘉元四年（一三〇六）、『昭慶門院御領目録案』讃岐国条に「一宮」と記される。

長祿四年（一四六〇）、守護細川勝元が二六ヶ条の壁書を定める。

天正一四年（一五八六）、仙石秀久が社領として一〇〇石を寄進する。

天正一五年（一五八七）、生駒親正が社領として一〇〇石を寄進する。

嘉元四年（一三〇六）、『昭慶門院御領目録案』讃岐国条に「一宮」と記される。

長祿四年（一四六〇）、守護細川勝元が二六ヶ条の壁書を定める。

一、創建

和銅二年（七〇九）

五十狭芹彦命、

二、祭神

倭迹迹日百襲姫命、天隱山命、天五十田根命、猿田彦命

三、祭礼

二月三日節分祭 四月十五日市立祭

五月七日・八日 春季例大祭

十月七日・八日 秋季例大祭

四、主なできごと

貞觀三年（八六一）、官社に列せられる。

延長五年（九二七）、延喜式神名帳香川郡条に

「田村神社 名神大」と記される。

永万元年（一一六五）、神祇官御年貢進社として「一宮」の名が見える。

嘉元四年（一三〇六）、『昭慶門院御領目録案』

讃岐国条に「一宮」と記される。

長祿四年（一四六〇）、守護細川勝元が二六ヶ

条の壁書を定める。

天正一四年（一五八六）、仙石秀久が社領として一〇〇石を寄進する。

天正一五年（一五八七）、生駒親正が社領として一〇〇石を寄進する。

嘉元四年（一三〇六）、『昭慶門院御領目録案』讃岐国条に「一宮」と記される。

長祿四年（一四六〇）、守護細川勝元が二六ヶ条の壁書を定める。

天正一四年（一五八六）、仙石秀久が社領として一〇〇石を寄進する。

天正一五年（一五八七）、生駒親正が社領として一〇〇石を寄進する。

延宝七年（一六七九）、田村神社を唯一神道として五〇石を寄進する。

し、大宝院（寺領五石五斗）を分離する。

昭和二〇年（一九四五）、国幣社制度廃止される。

一五、神宝（歴史資料館に寄託）

重文「田村神社古神宝類」



瑞花双鳳禽獸鏡



素文鏡



十二支八卦文鏡



片添刃鉄鉞身

田村神社古神宝類



讚岐国一宮田村大社壁書

# 神毫山大宝院一宮寺

一宮町字宮西



四国霊場第83番札所一宮寺の本堂および石塔等

一、開基 寺伝に行基または義淵とある。

二、宗派 真言宗御室派 本尊 聖観音菩薩  
四国霊場第八十三番札所

三、由緒 平安後期に讃岐国一宮田村神社の別当になったと推測される。守護細川勝元が長祿四年（一四六〇）に定めた「讃岐国一宮田村大社壁書」に見える「一和尚」は大宝院である（『讃岐一宮盛衰記』）。だが、仏堂が現在地に建てられた時期についてはつきりしたこととはわからない。延宝年間（一六七三〜八一）に神仏分離が行われた。田村神社から移された石塔などを除くと、現存最古の建造物は、宝永三年（一七〇六）の銘がある薬師堂だろう。

四、石塔（角礫凝灰岩製） 一基は築山にある。

▽宝塔 高さ約一・九五m 南北朝〜室町

▽層塔 高さ約一・九二m 宝治元年の銘

▽寄せ集めの石塔 高さ約二m 奉納田村大社の銘がある。鎌倉中期〜南北朝

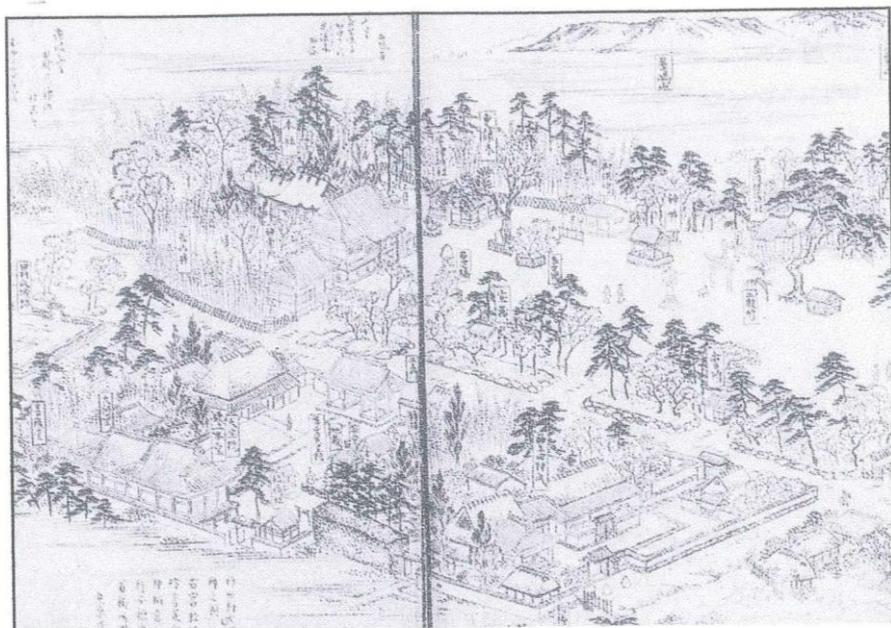
五、寺宝 懸仏（鎌倉中期のもの）、鰐口（明暦元年（一六五五）年施入のもの）など



一宮寺の石塔

「宮城跡と「かも荒神社」

一宮町字宮西



讃岐国名勝図会にみえる一宮城跡（左端）

田村晴望『讃岐一宮盛衰記』（一七一七）に「宮司之秩千貫ニシテ、附庸城に居住ス。城ハ社城ノ乾五十歩許ニ当レリ。元禄年中ニ外郭アリ。今ニ其跡遺レリ。内城古ニ異ナルコトナシ。二重ノ堀アリ。近来田園ト成レリ。貞享年中ニ第宅ヲ社城ノ西ニ遷ス。俗に号シテ是ヲ亦城ト云。」とある。

また、字宮西の北端、字城邸の近くに五輪塔群が残り、かも荒神として祭られている。『一宮村史』は一宮城主ゆかりのものではなからうかと推測している。五輪塔はほぼ室町期のものと思われる。



かも荒神社の五輪塔群

# 大井川出水

一宮町字城邸

『池泉合符録』に水掛高五四〇石余とある。用水は三名・一宮・鹿角に配分される。



## 一宮地区

### の出水

一宮町

墓ノ井出水

大滴出水

袂井出水

花ノ井出水

大井川出水

惣徳出水

上所出水

鹿角町

横張出水

太田井出水

上免出水

寺井町

下井出水

長井出水

雪寄出水

古出井出水

など

成合町

下所井

西白川出水

板倉出水

六条井など

## 推定南海道

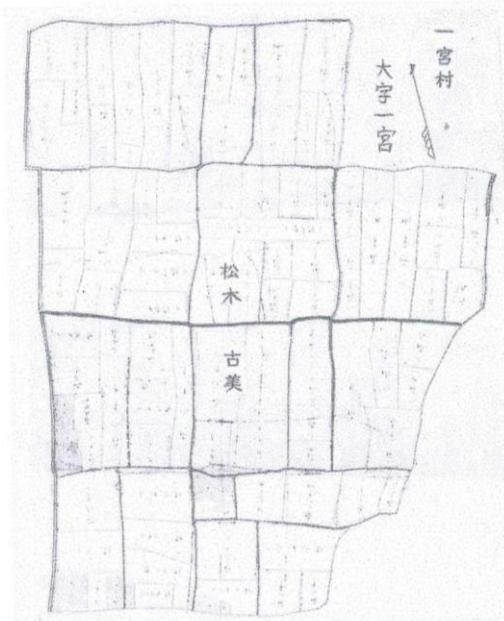
一宮町字古美・松木、池尻

推定南海道は、辻堂池の北堤防の北約一四〇mを東西に走る径溝線上にあり、南側が十一里、北側が十二里で条里の重要な基準点であった。この位置は、白山(二〇三m)と西の唐渡峠を結ぶ線上にある。推定線を境にして南側が字古美、北側が字松木である。推定線を西に伸ばすと、田村神社の奥殿付近が一宮寺の北側に出る。十一里の五、六列目の東西辺長は平均して、約一〇九m、一〇七mあるのに対し、その南北辺長の平均は、約一一〇m、一一四mと、推定南海道に接する辺長が数m長いことになる。十二里一・二列目の東西辺長の平均は約一〇七m、一〇八mあるのに対して、南北辺長の平均は、約一

西方から見た東西の径溝



## 字古美と字松木の切図 (明治二十三年作成)



一八m、一〇七mあり、古美の六列目と同様に推定線に接する南北の辺長が東西辺長に比べて一〇m近く長い。推定線を挟んだ二つの方角地割南北辺長の合計は約二三二mあり、一〇数m長い。これが余剰帯であるといわれている。(出石一雄「香川郡中部地域における条里遺構と推定南海道」『香川地理学会会報』No.16、一九九六)

# 辻堂池と中筋大道 一宮町字池尻、池ノ側



『池泉合符録』は、宝暦五年（一七五五）の調査記録に基づき、寛政九年（一七九七）に再度調査し、その結果を文政元年（一八一八）に修正し、まとめたものである。それによれば、辻堂池の水掛高は、九七八石五斗余で、その内訳はほぼ次のとおりである。

四二一石三斗余 一ノ宮

四〇五石九斗余 三名

一五一石三斗余 鹿角

辻堂池の築造された年代については、きちっとした記録が見当たらないのはつきりとはわからないが、宝暦年間に存在したことはほぼ間違いないようである。

このため池が築造される前の状態はどうであったか。高橋学氏の「高松平野地形分類図」などによれば、東側や北側に旧河道が認められるし、池敷や周辺に出水があったようだ。

ところで、近世、高松平野の中央部を横断する道路は中筋大道であった。辻堂池が築造されるまでその道は東西にまっすぐ走っていた。だが、池ができるとその道は池底に没し、代わって池の堤防が道路として利用されるようになった。北側に県道がついたのは比較的新しい。

辻堂池の現状は次のとおり。

堤長六九七m 堤高五・七m 満水面積二・一ha 貯水量六・九万<sup>3</sup>m 灌漑面積八四・八ha

三王大明神  
寺井町字西大所



一、祭神 大地主神

二、由緒 田村神社境外末社

三、祭日 九月下旬

四、境内社 古出水神社（大正十四年）遷宮

地神社 祭神 天照皇太神

大巳貴神

少彦名神

倉稻魂神

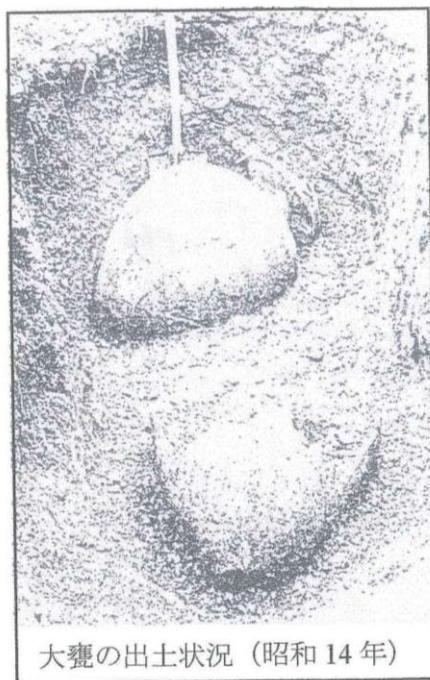
埴安姫神

五、鳥居 天保十三年（一八四二）四月建立

田村神社遺跡 一宮町字山ノ神

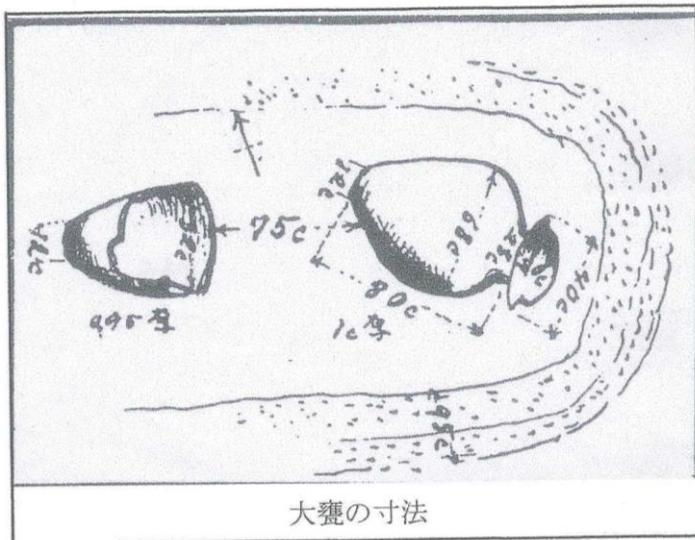


右前方が大甕の出土地（御旅所の西北隅）

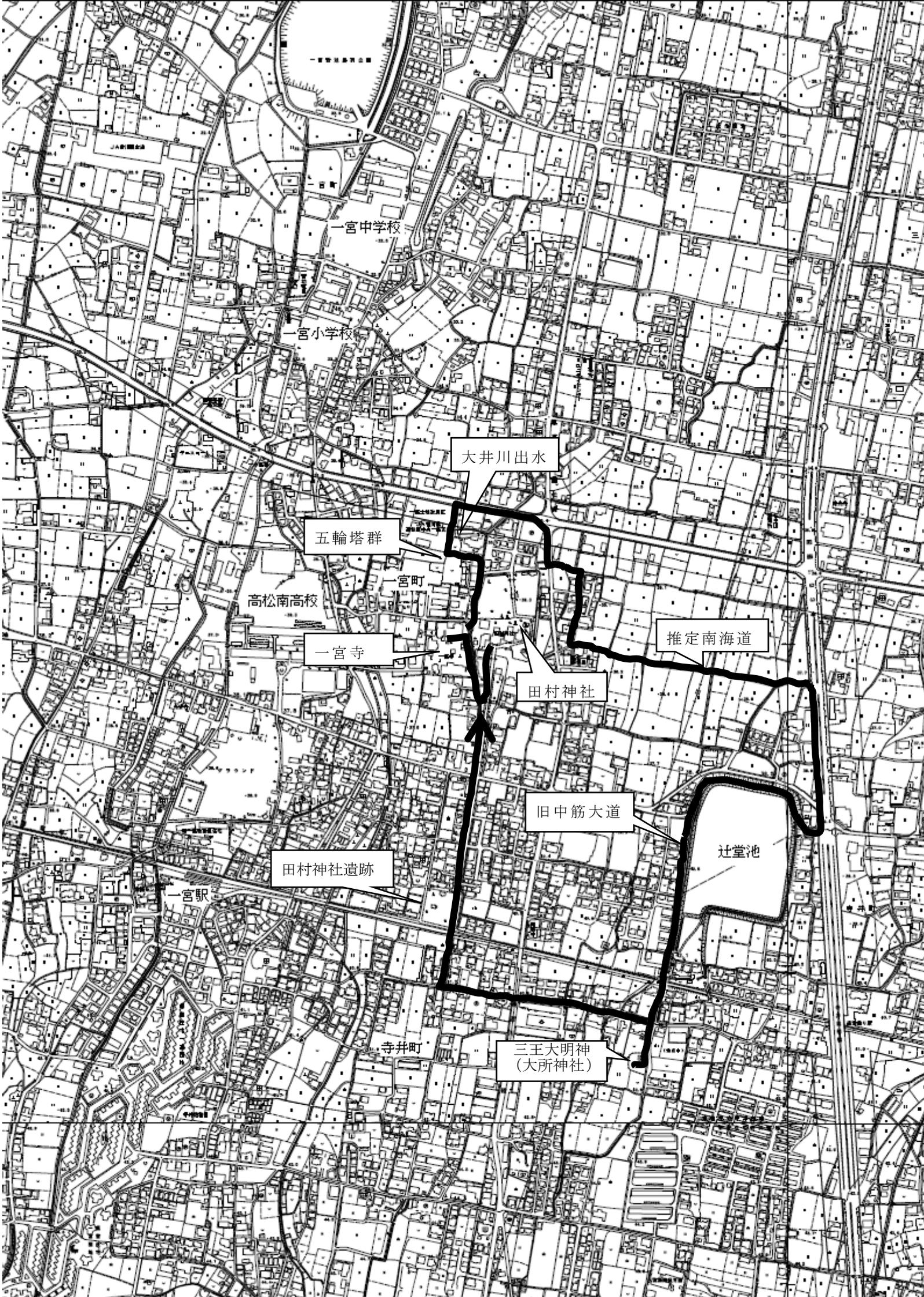


大甕の出土状況（昭和14年）

昭和十四年三月二十八日、田村神社御旅所で大甕二個が発見された。場所は、一宮村大字一宮字山ノ神三九一番地。四月十五日、寺田貞次氏が現地にて調査を実施し、翌年三月、その結果を香川県史蹟天然記念物調査会「史蹟名勝天然記念物調査報告第十一」に発表した。左の写真および下の図は、同書に掲載されたものである。地層は表土（粘土）約一五cm、アマ土約二〇cm、その下約五〇cmは粘土となっており、甕はその粘土中にて発見された。寸法は下の図のとおりである。用途は流動物の保存、年代は弥生時代後期とされる。



大甕の寸法



一宮町長官舎

一宮中学校

一宮小学校

大井川出水

五輪塔群

高松南高校

宮町

一宮寺

推定南海道

田村神社

田村神社遺跡

旧中筋大道

辻堂池

一宮駅

寺井町

三王大明神  
(大所神社)

1月27日(日) 一宮町からの復路

ことでん琴平線

(一宮駅)

(瓦町駅)

12:07 発 → 12:23 着

12:22 発 → 12:38 着

12:37 発 → 12:53 着

ことでんバス

(一宮バス停)

(瓦町天満屋バス停)

12:21 発 → 12:42 着

13:01 発 → 13:22 着

次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 下笠居・亀水の歴史を探る

とき 平成25年2月24日(日)

9:30～12:00

集合場所 ことでんバス 弓弦羽バス停

講師 青木 恵さん(元亀水組委員)

高上 拓(市教委文化財専門員)

☆広報「たかまつ」2月15日号に開催案内を掲載しますので、ご覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、文化財課(TEL 839-2660「午前7時30分～開始時間まで」)でお知らせします。(電話が通じない場合は、「実施」です。)

★**集合場所への交通案内**★-----

ことでんバス【香西・下笠居線】

11 弓弦羽(昭和町市図書館経由)

(高松駅バス停)

(弓弦羽バス停)

8:40 発 →

9:14 着



## 「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、  
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。  
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の端を  
一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけ  
ましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。